

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

12月号

平成27年(2015)12月 1日



「初心忘るべからず」

校長 市川幸男

校庭の木々が一枚一枚と葉を落としながら冬の訪れを告げ、今年も寒さが身にしみる季節となりました。11月は主な行事として、オープンスクール、3年生が参加した区児童音楽会、5年生が参加した区球技大会、最後に1・2年生による江の島遠足と続きましたが、それぞれ予定通り終えることができました。保護者の皆様には、各行事を参観していただいたり、励ましの声かけをしていただいたりするなど、誠にありがとうございました。おかげ様で子ども達は学習の積み重ねや、大会や発表会の中、一回りも二回りも成長し、がんばることの大切さや友だちの大切さに気づいていっているように感じました。今月末には冬休みとなります。ご家庭におかれましても年末年始の忙しい時期、子どもたちに家族の一員として仕事を受け持たせることは、責任感や成し遂げた後の充実感、一緒に働いた喜びを分かち合うなど、子どもの心を育てる絶好の機会でもあります。短い冬休みですが、ご家族お揃いで楽しく有意義にお過ごしください。

さて、『なれる』という言葉があります。この言葉には、さまざまな意味があります。

## ○「習慣になる」という意味

～ものごとをくりかえし経験していくうちに、すっかりやり方などが身につき、とくに苦労しなくてもできるようになるということ。

## ○「なじむ」という意味

～親しくなるとか、しっくりするということで、「友だちになじむ」「この土地になじむ」というような形で使います。

## ○「なれっこになる」という意味

～習慣になることの悪い意味で使います。「叱られることになれっこになる」などと使います。最低限の礼儀すら忘れ、けじめがつかなくなることでもあります。

## ○「古くなる」という意味

～いつまでも使っているうちに、古びてきて、新鮮さを失うことです。

## ○「なれ合い」という意味

～“なれる”と“合う”とが一つになり、できた言葉です。「たがいに親しみ合う」という良い意味と、「(悪いことをするために)グルになる」という、良くない意味があります。

この「なれる」ことへの戒めとして「初心忘るべからず」という言葉がございます。12月で始業式から8ヶ月が経ちました。子ども達、そして私も含めた教職員も、平成27年度の出発や10月の後期のスタートにあたって、新たな決意をもったり、目標を立てたりしました。子ども一人ひとり、教職員すべてが、真剣に考え決意した気持ちなのですが、時が経ち、毎日の生活に追われる中で、いつの間にか気持ちがゆるんでしまっている、あるいは、言われれば気がつくが、普段は念頭から消えている、といったことはないでしょうか。この12月を平成27年の締めくくり、そして新たな年を迎える機として捉え、初心に立ち返るとともに、『なれる』ということ問い直してみようと思います。